

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001362		
法人名	有限会社 豊中オアシス		
事業所名	グループホーム桜塚オアシス		
所在地	豊中市南桜塚4丁目11-4		
自己評価作成日	平成27年6月30日	評価結果市町村受理日	平成27年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理と散歩、外に出ることに力を入れていきたいと考えます。時間があれば誰かを外に行く事もいいと思うので、スタッフ全員の意識改革に今年は力を入れていきたいと考えます。色んなスタッフとの関わりをもってもらい、コミュニケーションをとり、入居者様の思いを知れるように取り組んでいきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、豊中・西宮市内で、グループホーム3箇所を運営する、有限会社 豊中オアシスである。ホームは、平成14年1月に木造2階建ての1~2階部分に2ユニットで開設された。閑静な住宅地域内に在り、大きな2階建ての「家・住まい」の佇まいが在る。近隣周辺には、緑豊かな公園・古墳、神社、学校、商店、コンビニ等が在る。ホームのケアの重点を「外出支援」とし、利用者が季節感を感じながら、そして、常に地域の人々とのふれ合いを楽しめるような外出支援を工夫している。そこには、外出支援は重要な生活リハビリと捉えた視点がある。ホームの理念を「明るく、楽しい、家庭的な環境」「安心、快適、尊厳のある生活」「入居者に応じた自立を支援」「家族と共に地域の関わりを大切にすること」として、これらの理念を具現化するための実践が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念には「明るく楽しい生活環境」としました。利用者様もそうですが、職員も笑っていないければ、利用者様からの笑顔はないと思うので挨拶から笑顔がみられるそんな気持ちのいい施設だね。と言ってもらえるようにしたいと思います	理念を「明るく、楽しい、家庭的な環境」「安心、快適、尊厳のある生活」「入居者に応じた自立支援」「家族と共に地域の関わりを大切に」する」として、入所時、職員会議、研修等でも、日頃から全職員が理念の共有を図り、理念の実践に向けての真摯な取り組みの姿が見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事を介護相談員さんや民生委員の方から教えて頂いているので、タイミングが合えば参加している。	理念に「家族と共に地域の関わりを大切に」する」とし、お年寄りを囲む会、夏祭り、敬老会等地域で開催される各種の催事に積極的に参加している。	今後は、町会、民生委員、行政担当者等、地域との協力関係を深める為の方法を相談・要請し、地域との交流を図ることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流を目指して行きたいと思います。その為に地域の方たちとの繋がりを持つ事かと思っておりますので、隣と合同で夏祭りを開催し、地域の方を招待していきたいと思えます		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加してくれている方達は色々な会議にも参加している方が多いので、違う目標を持つ事も違った角度から施設が見えるとアドバイスを頂いたので、参加させてもらい、他の人の意見も聞く事が出来るのでそれをまた、施設会議で報告し、検討したり、採用したりと幅がでるようにしていきたいと思えます	平成26年度は、年6回開催して、延べ41名の参加があった。参加者は、利用者、家族、校区福祉委員、介護相談員、地域包括支援センター職員、高齢者支援課、管理者等の参加で、ホームの運営、サービス活動内容や各種行事、外部評価等が報告されて、双方向的な会議を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組	施策課や支援課、福祉事務所の方々には、何か分からない事があれば都度連絡したり、伺ったりして密に連絡が取れるように努めています	日常的に市の高齢施策課や生活福祉課の担当者との相談・指導を受けながら協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時での連携がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則的には身体拘束を行わないを明示しているため、センサーを導入し、利用者様がいつでも外に行きたいというサインが分かる様にはなっています。時間が許す限り都度散歩にも対応しています。気持ちでの拘束もなくていきたく思います	管理者及び全職員は、身体拘束をすることの弊害は十分に理解している。定期的に「高齢者虐待防止、身体拘束ゼロ」の研修を行ない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の出入りには即応体制をとり、見守りを重視し、開放感があるように配慮した対応がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在虐待はありません。年間の予定の中に、職員全員の管理者との面談も入れ、半年ごとに変化がないかの確認を入れる事になっているので、小さな目が出来ないよう配慮していきたいと思えます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方が現在は3名おられますので、何かあれば、それぞれの方に相談させてもらいアドバイスを頂ける様に関係を保持しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の都合に配慮し、優先して日時を設定し十分に納得の上で契約して頂けるようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様との会話の中からヒントを頂き、検討して対応可能であれば即行動に起こして変更していく。食堂前のメニューなどもそうです	苦情相談窓口を設置し、意見・苦情・不安への対応をしている。2ヶ月に1回「桜塚だより」と管理者・各担当者・ケアマネが「連絡簿」により、利用者の日常生活、介護状況、各種行事等を手紙状に書いて家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2カ月に1度のペースで管理者会議の開催、各施設の意見、要望、相談など話し合う機会を設けています	毎月職員会議を開催して、職員の様々な意見・提案・要望等を聞く機会を設けている。会議では、管理者と職員は、業務内容、各種行事、ケアの技術、知識等を話し合い、職員のモチベーションを上げ、スキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が遣り甲斐やスキルアップできるように、また最近では研修費も会社負担もしてくれるようになってきているので、現場も色々と多様化していますが無理なく就業環境は出来ているかと思えます		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修であったり、施設内研修の充実、今後もどんな研修を受けたいかなども聞き取りしながら年間予定に添って行いたいと思えます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列会社のGHが近隣に2つあるので、今年も夏祭りの声を掛けたりしながら、交流をもち、研修会や意見交換などの場が作れたらと思えます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やサービスの利用時の様子を見させて頂き、本人様の生活歴、趣味、生き甲斐等アセスメントし内容を十分理解し、共同生活が安心、安全に過ごせるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約、入居に至るまで、見学や相談等をさせて頂き、不安や要望について家族様の意見を確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、相談員との情報交換を密にとり家族様本人様を含め今後の生活に対し、話し合う時間をもつようになっています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	情報を共有し本人様を理解できるアセスメントは職員も参加し個別ケアが充実できるよう努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば連絡したり、メールのやり取りの方もいるので、色々なやり方を使い、相談や連絡、報告を適時行う様にしています。また桜塚だよりも文章で記載している事もあるので施設からの情報はキーパーソンの方には必ず届くようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の判断があつて友人や知人の受け入れを行う様にしています。	利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、親しい友人、知人、親族等の訪問、馴染みの近隣公園の散歩、買い物、家族とのドライブや外食等の支援で、従来からの生活の継続性を確保した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性に考慮したテーブル席の配置としています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族様がお困りの時などがあれば気軽に相談できるようにお話しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい状況をつくり、時間を取って話を聞く(本人様と)。家族や関係者、職員の意見を聞き本人の把握に努めています	フェースシート、生活歴、日々の関わり、利用者の言動等や家族からの情報を収集して、利用者の暮らし方の希望・意向を把握している。把握しづらい面は、家族との意志疎通を図り、利用者の自己決定を促がしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族、その他関係者の方より生活歴を収集		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様と直接会い話する事により心身の状況を確認したり、職員からの話し、又は申し送りノート、介護記録を確認する事によって現状把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況や家族、職員から気付きや意見など情報収集を行い状況の変化の時はその都度介護計画を見直し作成している	フェースシート、診断書、健康管理表、介護経過記録、日誌・申し送り書、本人、家族、職員等から、個別ケア情報を収集して、介護計画書が作成される。見直しは、各職員の介護記録・申し送り書を基に、モニタリング表で毎月評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた点を個人の介護記録に記入し、職員間で情報を共有し気付いた点を実践し、介護職員の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族の要望に応じ、美容院に行ったり、本人と一緒に商店街やダイエーに衣類等を買に行っている。地域のイベントに参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問介護相談員やボランティアの受け入れ等、施設の人の力を借りた取り組みをしています。訪問理容、往診、訪問歯科の往診を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向に添いかかりつけの病院の継続、協力医療機関を受けて頂く場合は、本人様、家族様の同意を得て内科医の往診を受けて頂いています	本人及び家族の希望を尊重して、かかりつけ医の継続をしている。事業所の協力医療機関での受診を希望する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て、受診ができるように対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から2週間に1回、訪問看護師が訪問しています。健康相談、置き薬の管理をしていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中には可能な限り面会に行き、本人の状態の把握に努めています。また家族様からも病院からの情報を頂ける様依頼しています。面会時には看護師や医療連携室の担当者とも話す機会を持ち早期退院に繋がるように努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHでのメリットやデメリットを正確に伝え、家族様には様子の報告を定期的に行い、可能な限りでの希望に添えるように対応していけるように配慮していきます	「重度化した場合における指針及び同意書」があり、入所時の早い段階から、本人、家族、医師、関係者等での方針の共有と話し合いが行なわれている。事業所でできる具体的な支援内容や退去にあたっての具体的な内容も説明・話し合い、家族との協同により支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事、応急処置、救急要請、緊急時の対応については細かなマニュアルがほしいと職員から声があるので、見直していきたいと思います		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、緊急時の避難経路の確認や整備を行っています	年2回の避難・救出訓練を実施し、定期的に避難訓練(夜間想定)も行い、ビデオ鑑賞で防災訓練も実施している。災害時の避難方法を民生委員や運営推進会議等でも話し合い、地域との協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を把握する事に努め個々の人格に配慮、プライバシーを尊重した声掛け、コミュニケーションを行っています。	定期的に「接遇研修」「プライバシー研修」を実施し、全職員が対人援助サービスの知識や技術を身につける様に取り組み、人生の先輩に対して尊厳やプライドを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人様より意向、思い等を聞き出し、周囲関係者は思いが叶うように可能な限り支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせ、生活環境や介護計画に添ったその人らしい生活ができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回理容師、美容師の訪問があり、カットや顔そり等本人様の希望を伝えて行っている。毛染めは家族の意向も伺い職員でおこなっている。定期的に爪のカットも行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けや後片付け、配膳おやつと一緒に作って頂いたり、出来る範囲で参加して頂き楽しみを持って頂けるよう支援しています	献立・食材は系列会社が運営する、管理栄養士の下で、作成・提供される。食材はクックチル方式(真空調理)で、毎食検食を行い、硬さ、量、味付け、彩り等をチェックして、安心・安全で、楽しみながらの食事提供がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し個々の嗜好を把握し個別対応ができるように工夫しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底し各週火曜の訪問歯科医による口腔衛生管理を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、能力を活かし、その都度不快感がないように対応するよう心掛けています	健康管理表の中の、時系列に記録された排泄記録を基に、排泄パターンを把握して、トイレ誘導を促がしている。あくまでも、利用者の自立を目指した排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品等を提供しながらコントロールし、困難な方については内科医や看護師に相談しながら服薬にて調整しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めて行っているが、利用者様の希望にも添うよう配慮している。(温度、順番、一人の空間)等、基本的には週2回の入浴になっている。また別日でも入浴は可能になるよう配慮しています	入浴は、週2回を目安としているが、利用者の体調や希望には柔軟に対応している。入浴拒否の場合には、日時を変更、清拭、足浴、シャワー浴等で対応している。入浴時のリラックスした利用者との楽しい会話を弾ませる支援もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度に日中に運動を取り入れ、レクリエーションで歌を唄ったり、ビデオ見たり、散歩に出かけたりして安心して生活、リラックスして眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科の往診の薬の変更等については職員にも分かるよう申し送りに張り出ししている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、買い物、音楽、手芸、飾り付け等利用者様にあった役割を楽しみながら職員と共に行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事にも参加したり、買い物や外出の機会を増やしていきたいと思えます。また誕生日には職員とマンツーマンで外食を希望されれば一緒に食べに行く事も支援しています	利用者の体調や心身状況を考慮し、毎日の散歩、お花見、商店での買い物、神社の参拝等や職員との外食を楽しむ等での支援がある。利用者が季節を感じながら、地域の人々とのふれ合いを楽しめる外出支援がある。外出支援は重要な「生活リハビリ」の視点がかる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	中には今までの財布を預り、外出時には施設現金を入れて本人様には買い物をして楽しんでもらっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に入居時に確認させて頂き、本人様が連絡したいと言われた時には事前に家族様に連絡を取り、職員がサポートしながら電話や手紙のやり取りの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	6月に外観の塗装工事があり、とてもきれいになりました。建物の中は今までと同じ写真や季節の飾り等で季節感を出していければと思います。限られたスペースなので、有効的に活かせたらと考えます	玄関には、車椅子対応のスロープがる。玄関を入れれば、玄関や廊下の壁一面に、毎月の利用者の行事時の満面笑顔の写真が処狭しと貼られて、心が和む。廊下や食堂の天井の空間には折り紙のリングがアーチの様に飾られて、楽しい雰囲気がある。廊下の一画にはソファを置いて、準個室空間を造っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での時間の過ごし方が多いので相性をみたり、廊下や玄関先の屋根の下を活用して、狭くても色々な工夫が見られるようにしていきたいと考えます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室内は家族様の意向を受けています。馴染みの家具は安心にもつながるので本人様や家族様が安心してくつろげる空間を意識しています。居室は個性が出ています	居室には、使い慣れた家具、椅子、家族の写真、お花を飾り、従来の生活の継続性を確保している。各部屋には、押入れ、流し台等が在り、家庭的な雰囲気がある。ナースコール、スプリンクラーを設置し、安心・安全な環境が在る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りで行ける場所を可能な限り対応し、手すりや机等を上手く活用している		